

本年度の重点	1	教師の授業力向上を推進し、学力の向上を図る。
目標（評価規準）		○教師自身が、自らの授業力向上を実感する。 ○児童が、学力の向上を実感する。
重点に係る現状 設定理由		○子どもの学力向上を図るため、授業力を向上させる必要がある。 ○授業力向上にむけての意欲は十分にもっているため、校内研究を中心に、授業力向上を目指す。 ○子どもは、概ね授業に前向きに取り組んでいるが、学力の保証が十分にされているとは言い難い面もある。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○全職員が、実践を振り返り、「授業力が向上した面」を提示することができた。 教師自身が自らの授業力向上を実感できたと言える。
各アンケート等の結果	○児童向けアンケート項目「わたしは、勉強がわかるようにがんばっています」において、肯定的回答が94%であった。児童の意欲を喚起する点として評価できる。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、勉強していることがよくわかります」において、肯定的回答が88%であった。良好な評価ととらえる。一方、12%の回答について真摯に受け止め、今後の改善方針に生かしたい。 ○保護者向けアンケート項目「学校は、子どもたちが意欲的に学習し、基本的な学力が身につくように努力している」において、肯定的回答が93%であった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○授業力向上のための方策として、学校全体で取り組んでいる「校内研究」については、全教員が公開授業をする中で、自身の授業力を見つめ直し、向上させる機会として有効に働いた。 ○児童の学習面の実態については、概ね良好な評価ととらえる。しかし、力を出し切っていない児童、理解が不十分な児童がいるのも事実であり、それを真摯に受け止め、指導の基本的な方針としている「しっかり認め、しっかり教える」と「子どもの可能性を大切にする」を引き続き意識しながら指導を充実させたい。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、宿題以外にも家庭学習をしています」において、82%が肯定的な回答であった。「ホームワークアップ週間」や「自学」の取り組みを継続、充実させて、自主的に学習する態度をさらに育てたい。
学校関係者評価結果	○子どもたちは落ち着いた雰囲気の中で学習している。 ○学力の向上に引き続き努めてほしい。
最終改善方策	○引き続き授業研究を核とした校内研究の充実に努める。 ○家庭学習の充実や自主的に学習する態度を育てるため、自学の取り組みを継続する。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	温もりある雰囲気づくりに努める。
目標（評価規準）	○子どもが、「自分の学級は温もりがある」と実感する。 ○教師が、「自分の学級は温もりがある」と実感する。	
重点に係る現状 設定理由	○友達関係の大きなトラブルもなく、現状では温もりある雰囲気づくりができつつある。 ○一人ひとりに寄り添いながら、子どもとの「縦の関係」、子どもとの「横の関係」、子ども同士の「横の関係」を適切に築くことで、「温もりある雰囲気」をつくっていききたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○子どもと関わる全職員が、「子どもたちは温もりがある」と感じたことを、具体的に挙げる事ができた。教師自身が、子どもたちの温もりを実感できたといえる。
各アンケート等の結果	○児童向けアンケート項目「わたしは、学校へ行くのが楽しいです」において、肯定的回答が97%であったが、楽しくないと感じている3%に目を向けなければならない。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、友達となかよくしています」において、肯定的回答が95%であった。 ○保護者向けアンケート項目「子どもたちは、集団行動の中で助け合いやおもいやりの姿勢が育っている」において、肯定的回答が98%であった。良好な評価ととらえる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○学校スローガン「自分らしく いきいきと」のもと、児童の自己肯定感を高めることを常に意識して指導していることにより、子どもたちに「助け合いや思いやりの姿勢」が育ってきていると実感している。 ○学校へ行くのが楽しくないと感じている児童が3%いるので、今まで以上に一人ひとりに寄り添い、きめ細かな指導をしていきたい。 ○トラブル等は、学級担任が一人で解決しようとししないで、チームで解決してきたことの効果があらわれたと考えている。
学校関係者評価結果	○子どもが、学校へ行くのが楽しいと感じていることは評価できる。 ○よい雰囲気を維持できるように指導の充実を期待する。
最終改善方策	○子どもたちが「自分らしく いきいきと」生活できるように、学級経営を基盤とした指導の充実に努める。 ○子どもの自己肯定感を高めることを常に意識し、子どもに寄り添う指導を継続する。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校内外の安全の確保を目指し、地域・保護者の連携を図る。
目標（評価規準）		○保護者が安全確保のための連携の充実を実感する。
重点に係る現状 設定理由		○地域の団体等の尽力で、子どもの登下校における安全確保がなされている。 ○安全確保は、子どもの安全安心を守る必要条件なので、引き続き、諸団体と連携を図りながら取り組んでいく。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○教職員向けアンケート項目「私は、家庭・地域との連携を大切にしている」が84.6%、「学校は、家庭・地域との連携がなされている」が86.5%が肯定的な回答であった。 ○教職員向けアンケート項目「私は、施設・設備の安全に気を配っている」が82.7%、「学校は、施設・設備の安全への対応ができています」が82.7%が肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	○保護者向けアンケート項目「学校は、保護者や地域との連携を大切にしている」において、肯定的回答が96%であった。 ○保護者向けアンケート項目「学校の情報や考え方が、学校だより・学級通信等により伝わってくる」において、肯定的回答が92%であった。 ○保護者向けアンケート項目「学校は、子どもの安全に配慮し、環境整備に努力している」において、肯定的回答が91%であった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○学級通信、学校通信により、学校の考え方や情報を発信している。それにより、学校の考え方や情報が家庭や地域に伝わっているととらえている。 ○地域担当者との連携を図り、児童の安全確保についての協力を継続していただいている。 ○学級指導を中心に「自分の身は自分で守る」という基本方針のもと、防犯教育にも引き続き取り組んでいく。 ○施設の安全確保のための点検等に対する意識をさらに高めていきたい。
学校関係者評価結果	○引き続き地域と連携し、子どもの安全確保に努めてほしい。 ○PTAの協力により、地域とつながる行事が充実している。
最終改善方策	○基本方針「自分の身は自分で守る」のもと、防犯教育や防災教育の充実に引き続き努める。 ○地域と連携し、子どもの安全確保に努めるとともに、学校行事・PTA行事の充実に努める。